International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 27. No.2.　　2026 年 9 月号

驚の宮卓話

多文化交流プログラムの準備

太田敬雄

「多文化交流プログラムぐんま」では安中市の学習の森での２泊から３泊、寝食を共にする生活をする中で交流を深めて友達作りをしています。インドネシアのマランや韓国の釜山は、もう少し長くて約１週間のプログラムを創り上げています。

いずれのプログラムでも企画・運営するスタッフは学業の合間を縫っての三ヵ月前後の準備活動を展開する事になりますが、ここでは IIMS が主催の多文化交流 in ぐんまに絞って、その準備活動のようすを記して見ます。

準備期間の前にスタッフをそろえる活動が有り、そこから３カ月スタッフとなった学生会員は毎週一回の対面ミーティングでプログラムを創り上げます。最近は、それに加えて連日のようにオンラインでの相談も展開しています。

プログラムの企画から、チラシ作成と配布、大学に出向いての説明会、説明会をさせて貰うための大学や日本語学校との交渉、諸団体への後援のお願いなどと仕事は実に多岐にわたります。さらには、食事ボランティアの募集と、食事のメニュー作りもスタッフの学生の役割です。そして参加者の募集が始まると、参加申込者一人一人との連絡も分担して行いますが、そのすべてを通して、全体の進展具合を常に全員にシェアして助け合うこともスムーズな運営には欠かすことのできない仕事です。

ぐんまの多文化交流を特徴づけている要素の一つに、食事が有ります。毎回安中市の学習の森を会場にプログラムを実施していますが、そこは大きなキッチンが有り、調理器具や食器も沢山備えられています。

必然的に、そこで調理して食事を提供することになるわけです。スタッフの学生はどのような食事にするかを考え、そのために必要な食材を準備します。食事を作るのは「食ボラ」と私たちが呼んでいる食事作りのボランティア達です。食ボラは主に学生時代に多文化スタッフを経験して、今は社会人になっている OB／OG が同窓会に集まるように集まって、ひたすら食事作りをしてくれるのです。つまり、現役のスタッフにとっては大先輩たちが裏方に徹して、指示された食事を作ってくれるのです。

食ボラは何か足らない時には買い出しに走ったりもしますが、基本的にはスタッフが作り上げたメニューに従います。昔、スタッフの苦労を味わってきた先輩たちだからこそ、スタッフを立てて裏方に徹することを大事にしているのだろうと思います。

このスタッフと食ボラの関係が、多文化ぐんまに深みのある味となっています。



（メンバーは日によって変わりますが、いつもキッチンに籠り楽しげに過ごしています。）

やさしい日本語を、もっと身近に。

―伝え合い、分かり合える社会を目指して―

IIMSは【やさしい日本語】の普及を目指しています。国籍や文化、言葉、年齢、立場が違っても、互いを理解しようとすること。違いをなくすのではなく、違いがあっても理解し合える社会をつくること。私たちが大切にしてきた相互理解の価値・「みんなちがってみんないい」という考え方と、【やさしい日本語】には、とても多くの共通点があると感じています。

「やさしい日本語」ってなに？

難しい日本語を、相手に合わせてわかりやすくする伝え方です。

「土足厳禁です」
↓
「くつを ぬいでください」

外国人だけでなく、子ども・高齢者・障がいのある方など…

多くの人につたわる日本語。

● 「やさしい日本語」は外国人のためだけのものではありません。

難しい言葉をわかりやすく言い換えたり、情報を整理したり、相手に合わせて伝え方を工夫したりする。単に日本語を簡単にすることではなく、「相手に伝わるように伝えよう」とする姿勢が大切です。

外国人とのコミュニケーションはもちろん、子ども、高齢者、障がいのある方、日本人同士でも「やさしい日本語」はおおいに役立ちます。

「やさしい日本語」は一部の専門家だけが使うものではなく、誰もが知っている身近なコミュニケーションであって欲しいと考えています。まずは知ること。そして使ってみること。やさしい日本語を身近な人々に届けるところから始めたいと考えています。

● まずは地域から、一般の方々へ。

地域、一般市民、子どもたち（学校・教育現場）、NPO、行政、企業などを対象に研修を行い、やさしい日本語をさらにやさしくわかりやすくし、実際に使ってみてもらいます。

地域の中に「やさしい日本語を知っている人」を増やしていくことが目標です。将来的には、市民の3割程度がやさしい日本語の基礎に触れている地域を目指し、まずは安中市から県内へ広がるモデルをつくっていきたいと考えています。

● みんなちがって、平和な世界へ。

世界平和というと、とても大きな言葉に聞こえます。でも、その始まりは身近なところにあるのかもしれません。

「相手に伝わるように伝える。」
「相手のことを知ろうとする。」

小さな相互理解の取り組みが、IIMSが目指してきた平和社会への一歩です。違いをなくすのではなく、違いがあっても理解し合える社会へ。その願いで、やさしい日本語の普及を目指します。

会員の皆さん向けの講座も準備中です。
どうぞお楽しみに！

この活動の発案者は…

荒井 美幸 さん



今回、この取り組みの中心となるのはIIMS理事の荒井美幸さんです。

荒井さんは、太田敬雄会長の新島学園女子短期大学時代の教え子で、IIMS設立当初から研究所の活動に長く関わってきた仲間の一人。研究所にとってはじめての多文化交流（2002）を成功に導いたのも美幸先生でした。

荒井さんは、世界と人を「ことば」でつないできました。ブラジル、インドネシア、コスタリカ、セルビアなど海外の日本語教育の現場に立ち、国内でも大学や日本語教育機関等で長年、日本語教育と国際交流に携わってきました。

世界や国内のさまざまな場所で、異なる文化や言葉を持つ人たちと向き合ってきた荒井さんは「伝わること」の大切さを知っています。



多文化交流 in ぐんま 2026 夏・多文化交流 in プサン 2026 に参加して



群馬県立女子大学
森田花音

今回、「多文化交流 in ぐんま 2026 夏」と「多文化交流 in プサン 2026」の両方でスタッフを務めました。どちらもそれぞれ違った魅力があり、参加者の皆さんと交流する中で、最高に楽しい時間を過ごすことができました。



「多文化交流 in ぐんま 2026 夏」では、全 8 か国から参加者が集まり、様々な文化や考え方に触れることができました。参加するたびに新しい刺激や発見があり、視野が広がっていくことを感じます。また、群馬県外から参加する日本人も増え、外国人との交流だけでなく、日本人同士でも「多文化」を感じられるようになったことも印象的でした。



「多文化交流 in プサン 2026」では、1 週間を一緒に過ごすことで、最初はあまり話せなかった人とも距離が縮まり、友達になっていくことが嬉しかったです。ありがたいことにリピーターも多く、参加者自身が積極的に交流することで、自然と友情の輪が広がっていく雰囲気がとても素敵でした。

参加者からは、「ぐんまもプサンもそれぞれ違った楽しみもあり、繋がりの輪を広げるという共通点もあり、楽しかった」という声もありました。開催場所や期間は違っていても、「人と人が出会い、つながる」ことは、どちらにも共通する大きな魅力だと思います。私自身、多文化交流に初めて参加してから今年で 3 年目になります。この 3 年間で、久しぶりに再会する友達、日本語の上達に驚かされた友達、日本に会いに来てくれた友達、日常的に一緒にご飯を食べる友達など、本当にたくさんの大切な友達ができました。イベントでの出会いが、その期間だけで終わらず、その後も続いていくことをとても嬉しく思います。

また、9 月には「多文化交流 in マラン 2026」も開催されました。私も 2 年前に参加し、これまでにぐんま・プサン・マランの 3 つの多文化交流を経験しました。それぞれ違った魅力があり、どのイベントでも素敵な出会いや思い出が生まれます。参加する皆さんにも、ぜひその場所ならではの交流を楽しんでほしいです。

多文化交流は、様々な文化を知るだけでなく、人と人が出会い、理解し合い、友情を築いていく場だと思います。これからも一つひとつの出会いがつながり、友情の輪が広がり、国や文化を越えた平和にも少しずつつながっていけばいいなと思います。

▼ご寄付及び会費納付先▼　―変わらぬお力添えをお願いします―

【クレジットカードによるお手続き】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。

研究所（IIMS）のホームページ
https://iims-japan.org/

【振込用紙によるお振込み】

郵便振替口座：加入者名　国際比較文化研究所
口　座　番　号　00510-0-61974

銀行への振込：群馬銀行　安中支店　普通預金
口座番号　0958657
加入者　トクヒ）コクサイヒカクブンカケンキュウジョ

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振込用紙を同封させていただきますが、これは請求書ではありません。一律に皆様にお送りしているもので、すでに会費をお振込み下さった方にもお送りしています。
メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送りしておりませんが、郵便局の振込用紙、もしくはカードでお振込みくださいますようお願いします

26 年度新規御入会（敬称略）

正会員：林原泰樹、**賛助会員**：佐々木顕

会費納入者・寄付者芳名録（2026.6.1～9.30）（敬称略）

皆様の変わらぬお支えに励まされて活動を続けています。有難うございます。

正会員会費：林原泰樹、菅ケ谷純弘、髙尾善樹、恩幣宏美、
賛助会費：木暮道子、塚越優子、高橋美一、熊倉浩靖、大江士、正田智美、今井睦子、森啓(26-30)、青木洋子、佐藤貴雄、佐々木顕、阿部洋一、吉野愛子、中村さよ、大谷雄一、
寄付：木暮道子、菅ケ谷純弘、岩本松江、長谷川勝義、大江士、今井睦子、村井田和夫、植原映子、阿部洋一　**毎月寄付**：片岡謙、根岸大輔、樋本達之、吉田理沙、

おまけの卓話：「今年の多文化交流 in マランから」　太田敬雄

IIMS の多文化交流では参加条件として 18 歳以上としていますが、年齢の上限は設けていません。今年のマラン参加者の岡田さんにとっては他の参加者はお孫さん世代でした。「マランの皆さんに和菓子を作ってお見せしたい」との岡田さんの希望は、ブラウィジャヤ大学日本語学科での授業に結集しました。





和菓子作りから日本文化を学んだようです。

編集後記：☆あと半年で 85 歳になります。この四半世紀、定年のない世界での活動が許されてきたことは大きな恵みでした。大勢の方々に支えられて、今も厚かましく 10 月、11 月のオムニバス講座や、マランの中学生グループを安中に受入れ、続いて来年雄夏には家族多文化交流 in マランを企画中です。どれも自分で出来る事ではなくなってきています。これからの立ち位置を考える第 1 歩として MCI を学んでいます。（敬）

発　行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電　話：027-382-5998　FAX:027-382-6393
研究所 HP：https://iims-japan.org
メールアドレス：iims.since2000@gmail.com
まなぱる HP：https://manapal.jp
メールアドレス：mail@manapal.jp
郵便振替口座：加入者名　国際比較文化研究所
口座番号　00510-1-61974